第37回日本木管コンクール
（フルート部門）
会場：東条文化会館コスミックホール
発行日　2026年10月31日（土）
（第2号）

ほっとねっと

発行：日本木管コンクール委員会
〒673-1311
兵庫県加東市天神66
TEL 0795-47-1500

二次予選出場者 15名が決定！

第二次予選出場者の選出に思いのほか時間がかかりました。審査員の方々の慎重な審議の結果、15名の方が選出され、二次予選進出者が決定しました。

二次予選出場者（エントリーナンバー）

3	7	17	18	20	23
25	27	33	40	42	47
49	51	63			

【二次予選　課題曲】
下記の1～6番の中から任意のソナタを1曲選択。
演奏時間：20分以内にまとめること（繰り返しは自由）

バッハ／フルートとチェンバロのためのソナタ
1．ロ短調　BWV.1030
2．変ホ長調　BWV.1031
3．イ長調　BWV.1032

バッハ／フルートと通奏低音のためのソナタ
4．ハ長調　BWV.1033
5．ホ短調　BWV.1034
6．ホ長調　BWV.1035



♫ 一次予選出場者のみなさんの感想 ♪

●東京から初めての挑戦。伝統あるコンクールで、このコンクールを受けている人は有名な人ばかりなので、自分もまざってみたいと。このホールはめっちゃ響きが良い。響きが全体に広がり、その波が跳ね返って広がる感じ。演奏していて楽しかった。すてきなホールです。

●「このコンクールは登竜門かな」という思いがあり参加しています。2回目の挑戦です。回を重ねることにより、ホールや周りの状況がわかってくるので前進の感じがつかめます。

●ホールの響きの良さと、それを取りまく雰囲気の良さがあって挑戦を重ねています。回を重ねるごとに自分で感じるものもあって、これからも頑張っていこうと思っています。

●小学校3年生頃からフルートを吹き始めました。理由はよく覚えていないのですが、独学でした。今ではフルートの魅力は音が美しいこと、人の声に一番似ているかなと思っています。なので、自分が歌を歌うように吹けることが魅力だと思います。

●沖縄から来ました。はじめての挑戦で緊張しましたが、響きが感じられて楽しめました。今、会社でオーボエを作って3年目。オーボエは特殊な楽器で製造にかかわることも勉強になっています。今後も、フルート演奏を続け、演奏活動にも頑張っていきたいです。

●千葉から初めて挑戦、大学1年生。ホールの響きが素晴らしいと聞いていた憧れのホールです。自分の音が返ってくる感じがあり、気持ち良く吹けました。フルートは小学校から練習していて、低音の温かさ、奥深さに惹かれています。作品の良さや音の素晴しさを伝えられるようになりたいです。

●3回目の挑戦。響きが吸われてしまうホールがあるけれど、このホールは音が返ってきて、音が届いている安心感がある。夢はオーケストラに入ることが叶ったら嬉しいです。

個別講評について

日時　11月1日（日）
午前10時00分～11時30分（予定）
場所　ホワイエ
指導　個別講評の審査員は、当日抽選で決めます
（10時～）
※本選出場者を除く希望者

審査員特別演奏会のお知らせ

日時　11月1日（日）午後3時30分頃～
（審査終了後、ステージの準備が整い次第、特別演奏を始めます。）
場所　ホール
曲目
1．J.A.Andre／Trio　1楽章　3楽章
2．E.Bozza／3つの小品
3．L.Maury／Changes



公式伴奏者の紹介



大堀　晴津子

東京音楽大学ピアノ演奏家コース卒業。同大学大学院修了。在籍中、特待生奨学金を得る。東京音楽大学ピアノ科非常勤伴奏助手を経て、現在、昭和音楽大学・同短期大学部非常勤伴奏講師。東京藝術大学音楽学部打楽器科非常勤講師（伴奏助手）現在はアンサンブルピアニストとして、室内楽や器楽伴奏を中心に演奏活動している。



黒岩　航紀

東京藝術大学音楽学部ピアノ科を首席で卒業。同大学大学院修士課程、及びリスト音楽院修了。東京藝術大学ピアノ科非常勤講師を務め、現在は甲斐清和高校音楽科非常勤講師、CJM神宮の杜音楽院講師を務める傍ら、国内外各地でマスタークラスも担当している。



西川ひかり

大阪府立夕陽丘高等学校音楽科を経て、相愛大学音楽学部音楽科ピアノ専攻ピアノ・アドヴァンス課程を特別奨学生として首席で卒業、学長賞を受賞。同大学大学院修士課程を修了。
相愛大学音楽学部演奏助手。現在はソロ活動とともにアンサンブルピアニストとしても活動の幅を広げている。



與口　理恵

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、同大学音楽学部器楽科を経て、同大学大学院音楽研究科修士課程修了。
現在、東京藝術大学音楽学部管打楽器科演奏研究員。昭和音楽大学、同大学短期大学部、同大学大学院非常勤講師。現在は数々のコンクールの伴奏者として、また内外の著名な音楽家とも数多くの共演を重ね、圧倒的な信頼を得ている。

第37回日本木管コンクール
（フルート部門）
会場：東条文化会館コスミックホール
発行日　2026年10月31日（土）
（第2号）

ほっとねっと

発行：日本木管コンクール委員会
〒673-1311
兵庫県加東市天神66
TEL　0795-47-1500

審査員の先生による　一次予選　講評

※委員名は五十音順です

高木 綾子　（審査委員長）　東京藝術大学音楽学部准教授



全体として素晴らしい暗譜演奏でしたが、暗譜に集中するあまり和声や調性的な表現が薄れ、連符を素通りしてしまう点が惜しまれました。特にフランスものは、フレージングの繋がりや音のソノリテ（響き）を大切にし、リズムにエスプリやジョークを感じさせたいところですので、それが伝えられるテンポ設定をしてください。また、端陽は中国の楽器、洞簫（ドンシャオ）の奏法をぜひ聴いてみてください。尺八に似た楽器ですが、装飾音符の扱い方のヒントになると思います。ロレンツォはイタリアオペラを想像し、歌心やドラマティックな要素を取り入れることで、一層華やかな演奏になるはずです。

ニ次に進まれた方々は、どのような場面でも音色などを意識して音楽表現をされていたと思います。

清水 信貴　（運営委員長）　相愛大学音楽学部教授、神戸市室内管弦楽団首席奏者、一般社団法人日本フルート協会副会長



エモーションがあるのは良いのですが、それに溺れて演奏がダメになっている方がいます。やはり何でも「過ぎたるは及ばざるがごとし」ですね。

演奏の速度についてもそうですが、テクニックがあるのはわかりますが、コントロールが効かなくなっては暴走列車のように危険です。聴いている人にはっきりわかるようなクリアーさが必要と思います。海外に行くと「アーティキュレイション」という言葉がよく使われます。Good sound ,Good music,Good articulation などと上位に挙げられます。例えばアナウンサーは整然と話して、聞いている人にわかりやすく喋っていますね。これと同じように音楽の演奏もそれぞれのパッセージの意味がはっきり聴いている人に伝わるように演奏したいです。そして音の粒を際だてる事も大切です。

相澤 政宏　東京音楽大学教授、東京交響楽団客演首席フルート奏者



とても上手に吹かれている方が多く、正直既定の人数に絞るのが難しかったです。その中でも色々と感じたことは多くありました。まず、拍子感とフレーズ。無伴奏ですので自由度は大きくなりますし、勿論自由なのですが、その中に作曲家が書いた拍子とフレーズが大切な場所が多くあります。それを関係なく吹いていた人も多く見受けられました。また、隣のフレーズとの関係にも注目していただきたいと思いました。とてもよく響くホールですから、速過ぎるテンポで吹き飛ばすと、よっぽど上手に吹かないと音が全く分からなくなる時があります。また、音程にもっと配慮が必要と感じた人も多く見受けられました。響くホールでは、分散和音が和音に聞こえます。音程が悪いと音がホールに響かないことがあります。

高橋 聖純　国立音楽大学准教授



一次予選オネゲルを演奏した人はいませんでしたが、6曲それぞれ大変素晴らしい演奏を多く聴かせていただきました。皆さんフルートを演奏する技術が高くレベルは年々上がっていることを実感しました。以前講評で楽譜をしっかりと読み込むことの重要性を仰った先生がおられたと記憶しておりますが、楽譜をしっかり読み込んでいる方も多かったと思います。さて、そこで楽譜を深く読み込んだあとに『その楽譜に書いてあることは一体何を意味しているのか』『それによって何を言いたいのか』ということを楽譜から読み取り、それを自分の言葉として演奏を通して聴衆に伝えることが演奏家として必要になってくるわけですが、そこまでのメッセージ性を持って、fantasy豊かに演奏された方はそんなに多くなかったと感じました。やってもやっても上を目指して探求できる、それも音楽の(演奏の)魅力の一つではないでしょうか。

中務 晴之　大阪教育大学名誉教授・特任教授



第一次予選は様々な作品が課題でしたが、この素晴らしい音響のホールの響きを察知して、バランス良く、美しく演奏したプレイヤーが少ないのは残念でした。逆にフォルテは息を入れすぎて音を割り、細かいパッセージは速く演奏しすぎて細かな音符が全くボケてしまう。そんな方が良い結果を得られなかったのでは。またエラート作品での参加が多かったのですが、どうしてみんな最後のページはあんなに急ぐのでしょう。何か魔法にでもかけられたかのように。
今後、無伴奏作品は構成をよく考え、表現力のあるバランス良いを心かげてください。

長山 慶子　元大阪音楽大学教授



第一次予選、お疲れ様でした。予備審査を通過されている方達なのでレベルの高い演奏が多かったです。選択曲を皆さんご自身で選ばれたわけですが、選んだ理由はなんでしょうか？ 前にやったことがあるから、カッコいいから、一度勉強してみたかったから、、、 様々な理由があると思います。練習していくうちに、よりその曲の面白さや難しさを感じていくと思いますが、特に曲の持つ特徴を上手く表現して、伝えられた方が1次予選に残られたのだと思います。＜以下走り書きのメモより＞安定している、歌心あり、センスアリ、音色のコントロール上手い、フレーズがしっかり見える。構成力、骨格がハッキリしている。音程感がしっかりしている。最後まで惹きつけられた。聴かせるねー。速すぎる、フレーズが見えない、速いパッセージでも表情が欲しい。力みでせっかくの良い音色が！上に跳躍時、上がり切ってない人多い、、、、等色んな感想を持ちました。

これからもたくさん悩んでください。音楽に正解はありませんから。

橋本 岳人　愛知県立芸術大学教授



一次予選を聴き終えて感じたのは、全体的なレベルが上がっており、予選通過することが困難になっているという点です。当落線上で惜しくも分かれた方も多くいらっしゃったことと思います。その中でも少しアドバイス出来ることをいくつかお伝えしたいと思います。今回一次予選では暗譜指定でしたが、昨今のコンクールでは暗譜が減った為か、少し不安気に吹いていた方がいました。日頃から暗譜慣れをしておくことも重要だと思います。また、それぞれの作品に細かいインフォメーションが書かれていますが、例えばフェルーであれば、話の内容を理解しているか。それらが単なる音符ではなく、しっかりと「音楽」として表現できていたか、ぜひ今一度見直して頂けたらと思います。さらに、かなり速いテンポで吹かれていた受験者も多かったのですが、その分表現が薄くなる方もいたので、テンポ感を再考し、ニュアンスや色彩感を大切にして頂ければ、より音楽の幅が広がると思います。このようによく響くホールでは、アーティキュレーションが不鮮明になり易いので、より音の粒をクリアに吹くことも大切です。参加者の皆さんが、今回の経験を糧に今後さらに飛躍されることを心より楽しみにしております。

～加東市ふるさと納税（ふるさと応援活動支援金）によるご支援をお願いいたします～

特定の団体（支援希望団体）に対する寄付の受付を開始しています。
QRコードをスマホ等で読み取っていただくと加東市ふるさと応援活動支援交付金交付制度のページにつながります。申請用紙については、ホームページからダウンロードできます。
特定の団体（支援希望団体）については、「特定非営利活動法人　”新しい風かとう”」にお願いします。
詳しくはホームページをご覧ください。
また、団体名をクリックしますと「特定非営利活動法人”新しい風かとう”」のホームページをご覧いただけます。

～日本木管コンクール開催における協賛・ご寄附にご協力をお願いいたします～

日本木管コンクールは、地元の企業や楽器メーカ各位をはじめ、コンクールを応援してくださる個人の皆様の温かいご寄付とご協賛に支えられて取り組みを続けてまいりました。この素晴らしいコンクールと文化の灯を消してはならないとの思いと、若手音楽家の登竜門として、また日本の音楽文化の発展に寄与してきた功績をご承知いただき、引き続きこのコンクールを継続していくため、多くの方々にご支援を賜りますよう、皆様のご協力をお願いいたします。
詳しくは「特定非営利活動法人 ”新しい風かとう”」又はQRコードをスマホ等で読み取ってご覧ください。